

## 週日の説教

金 大烈 神父 2010年2月12日(金)

### 《一番私に相應しいこと》

おはようございます

大体、話せない人は聞こえないから話せないのです。ですから耳の不自由な人は言葉を話すことが難しいのです。言えない人は100%と言ってもいいくらいに耳が聞こえない人です。私は今日の福音を読んで、もし自分の耳が聞こえなかったら、どんなに息苦しい気持ちになるか、もし、舌が回らない状態で産まれたら、今の私は存在しないでしょうと思いました。皆様だったらどうですか。想像してみてください。もし皆様が、耳が聞こえない、口が利けない、そして目が見えない、そのような障害を持ってこの世に産まれたら、今までの人生とは全然違う人生を迎えて来たと思います。なりよりも、感じられる痛みとか、苦しみ等を考えてみたら、もう大変なことですよ。このように自分の立場で、自分がそのような立場になったら、どうなるかと黙想が出来なかったら厳密に言いますと、その痛みを持っている人々に近づけないのです。よく考えてみますと、やっぱり私がそのような障害を持って産まれたら、上手く生きて来られたか率直に言いますと自信ありません。

色々な痛み、障害を乗り越えて、今まで上手く生きてきた人々が沢山いらっしゃるわけですよ。そう考えたら尊敬の目も生じます。「ああ、あのような人、色々な難しさがあったのは当たり前のことと思うけれど、今まで60歳、70歳まで上手く生きて来たのだなあ」と思えば、やっぱり私達は理解の幅も広がって、彼らにただ、憐憫れんびんの情じゃなくて、本当に痛みにも一緒に与かろうとするその心が、自然に出て来るのではないかと思ってみました

さあ、今日イエス様はなにを叫んだのですか。『エッフアタ!』『エッフアタ』の意味は「開け!」。イエス様がこの世の中をご覧になったら、このように叫びたくてたまらない気持ちになられると思います。体の色々な障害によって私達は息苦しい感じに思うのは当たり前。しかし、イエス様の立場で、「本当に私があなたがたにいいことを伝えながら、命さえ捧げて来たのに、あなた方は私が訴えたその生き方を何故しないの」と。苦しい心、悲しい心で今の時代にすんでいる私達、特にカトリック信者に『エッフアタ』と叫んでいらっしゃるのではないかと、自分に対してもそのような黙想が出来ました。「今もザベリオ神父、あなたに私がいつも言っていることを何故聞いてくれないのか。」『エッフアタ』と私に叫んでいらっしゃるのではないかと、今日のミサ前に考えてみました。やっぱり、私達には靈的な耳も、靈的な目も、靈的な舌も必要です。もし、正しいものを見ることが出来なかったら、そして、正しくないものを見極める目じゃなかったら、私達は見ても見えないことになるでしょう。美しい言葉、人を活かす言葉を耳にすることが出来なかったら、その耳もいらぬ耳になるでしょう。そして、口も本当にイエス様が強く懇切に望んでいる御言葉を、伝える事が出来なかったら、いつも人を殺す、いつも人を攻める、いつも人を妬む言葉ばかり使う道具としてこの舌が使われたら、その

口も必要ないでしょう。ですからある意味で私達はいつも見えるように、いつも聞こえるように、そして話せるように、正しく祈らなければならないと、今日の福音(マルコ7・31-37)を通して考えてみました。

今日の福音の中にも面白い箇所があります。人々は耳が聞こえなく、口が利けない人をイエス様の御前に連れて来ます。そして、彼らが望んだのは、「あなたのその御手をこの頭の上に置いてください」と願います。しかし今まで見せたことのないことを、今日イエス様が見せます。群集から連れ出し、そして直して下さった。両耳に指を差し入れて唾さえつかってその人に触れた。そして『エツファタ』と叫んだ。それでその人は癒されたと福音は語っています。なぜイエス様がそのような行動なされたかは分かりません。誰も解からないでしょう。ただ、この物語で考えられ事は一つじゃないでしょうか。それは、私達はこのようにして下さいと願ったけれども、イエス様は、その人に何が必要であるかを、解かっていらっしゃることは確かなこと。私達は「これをして下さい」という色々な祈りをします。しかし、イエス様の立場では「あなたにはこれは必要ではなくそれが必要だ」となさるのが、イエス様の御手の働きだと思えます。ですから、たまにイエス様が、何故私の祈りを聞いて下さらないのかと思われる時、あまりがっかりしないで下さい。必ずイエス様はその祈りに応じていらっしゃることを信じて下さい。そして、一番私に相応しいことを、必要なことを、イエス様が準備して下さいの信じるのが、信仰じゃないかと思いました。

さあ、今日召命のミサを捧げています。総会の時(2月21日)に皆様をお願いしようと思っておりますが、私が気になっている事があります。それは日本の教会は全体的に「次世代のこと」を考えなければならないと思えます。「次世代」のことを考えますと信者のこともあります。召命のことも結構深刻な状態です。今度の総会で、皆様をお願いしようとしている事は「ピアンネの会」に、できるだけ沢山の方に入ってもらって、一緒に祈りましょうということです。同じ意向をもって心合わせて「次世代」の教会が召命者いなくて、召しだし者がいなくて、崩れてしまう困難さがないように、私達が祈りましょうと願うつもりです。皆様も一人一人が「ピアンネの会」の一員として、本当に福音的な誘いが必要じゃないかと思えますのでよろしくお願いします。

ありがとうございました。